

二の國民だ！　そしてそれを導く我々だ！！

力強く大地を踏んでしつかり立たう。



み　　り

(一)
「先生お母様になつて頂戴よう」

日のよくあたる、程よい廣さのお庭に敷いたござの上で
おまゝ事がはじまつた、お砂場用のお椀がお茶椀、バケツ
がお釜、トンチルが茶箆筒等の重要な役目をして居る。ござ
のすぐ横の小さな花壇には、秋に皆で植込んだチェーリッ
プの芽がやはらかい土を突破つてそろ／＼小さな頭を出
しかけて居る、お嬢さん達は甲斐々々しくも御掃除やら
お買物に出掛けたりして大忙し。四、五人居るお坊ちゃん
A先生と御一緒に少し離れてあるお池の水かへに大忙し。
フツと見上げる空の美しさ、青々澄み渡つた空にうつす
ら／＼飛びかつて居る雲まで何て美しいんだらう。あゝ何て
のびやかな朝だらう、何て静かな氣持だらう、みるもの聞く

もの、總てがほゝえまゝに居られないあざけなさも静かさ
だ。

「お母様早くお食事にして下さいな」

「おかあちやま、おなかぢちゆいたのよう」

お姉様になりましたお嬢さん、赤ちやんになりきつた

お嬢さん方からのお食事の御催促。

「さあ／＼作りませうね。今日は何にしませうか、お壽

司？　草園子？　何でもお好きなものにしてよ」

バケツのお釜、砂によごれた木椀のお茶椀等がおさない

世界のお料理を作るのに充分役立つてくれてまた／＼くまに

おいしい御馳走が出来る。

お坊ちゃん方はお池の汲出しにもあきたま見えござの上

に足をなげ出して日向ぼつこをして居る、誰か歌ふとも

なく小さな聲で「何處かで春が生れてる……」と口ずさんで居る。

何ごもいへないホガラカな風景だ。

此の和やかな子供の世界に浸つて、何も彼も忘れて、すっかりお母様になりきつて一緒に遊ぶ氣持……それは何ごもいへぬ心の底からの愉快その物だ。「あゝ愉快だ、こんなに私の胸は廣やかに開ききつて居る、何て楽しいんだらう。誰が何ごも云つてもこの心ののびけさはつぶされはしない、まあみてくれ、この晴やかな心の中を」諸手を擴けて大空に向つて叫び度い様な氣がして来る。

しかし此の時心の中で何か囁やく聲がして来る、「こんなに、いゝ氣持になつてしまつて、唯お子さん方ご一つになつてしまつて遊んで居ていゝのだらうか、何か大切な事を忘れて居やあしないかしら、此れで一體教育になつて居るのかしら？　こんなに子供みたいになつて遊んで居る保姆つてあるものかしらん」。

其の囁きは次第に大きな聲になつて私を責める、自分自身でもハッピしてその聲をひし／＼と身に感じながらも、

又一方では「其れでいゝんだく」。ミ何故ごもなしに無條件に肯定する心が湧いて来て前の囁きを押のけ様とする。囁きは一層聲を大きくしてせまつて来る。

斯んな矛盾した考へは、私が愉快にお子さん方ご遊べば遊ぶほど濃くモク／＼と湧いて来て私を悩ます。此の悩みは何時になつたらさけるだらう、誰一人ごして相談にのつてくれる人を持たぬ小さな私は苦しみながらも自分自身で何時迄も悩まされなくてはならないのかしら。

(二)

「さあ、お雛様作りませうね、今差上げるから待つて頂戴」

すつかり用意したお雛様のお顔やら、いよまさをくばる。幾日も／＼いろいろのお雛様をみたり、本をみたりして考へて考へて考へぬいてつくり出したお雛様一揃ひ、缺點だらけではあらうが私としては全力を注いで作り出したお雛様、早速そのまゝを皆さんにさせる。

大内裏様、三人官女、五人ばやし、櫻、橘と豫定通り一

日々次第に出来上つて硝子棚がだん／＼満員になる。人に教はつて作つたのこは異つて自分の力の限りを盡して作り上げたものだけに、其のだん／＼出来上つて行くのを見るこ何こもいへぬ嬉しさがこみ上げて来る、何こ形容したらい／＼だらうか、丁度母が子をみる様な親しみ云はうかカづよさ云はふか何こも云へない底深いゆるがせに出来ぬ感情が湧いて来るのだ。

明後日はいよく三月三日、今日の中にお子さん方こー



大阪市 御津幼稚園保母

宮 本 光 代

一ヶ年の修業を終へて盛り上る希望こ高い理想を胸に抱いて大阪の地に参りましたのも、もう彼此一年近くになります。今其の跡を省みまして感ずる儘を少し書かせて頂きます。

學校を卒業しますれば之からは一人前の保母として世に出るのだこ思ふこ喜びの中にも内心全く不安で堪りませんでした。今の此の私の力で三十人、四十人もの子供を一體

緒にお雛段を作つて飾りませう。

お雛菓子は何に仕様かしら、お花はみんなのを活け様かしら……こんな事を考へて、自分でも不思議な程、お子さん方にもまけない程の嬉しさが湧いて来る、何で斯んなに嬉しいのかしらこ考へながらも一人でに嬉しさがこみ上げて来る、そして例へ少しの時間でも斯の様な嬉こびに浸つて居る事の出来る幸福をつく／＼身に沁みて感じずには居られないのだ。

さうして行かれるかしら、斯うした不安さは私のみならず友達同志の間にも良く話題に上つたのであります。僅か一ヶ年の實習を以て既にここ足れりまして人を教へる位置に立ち先生と呼ばれる身こなるには我乍らあまり無鐵砲過ぎる面恥い様な氣が致しました。兎に角無事卒業も終へた私達は、お互に最善の努力を拂つて理想の實現に努めませうこ確く握手を交してお別れして來たのですが、其の後は